

# 奄美大島・喜界島農業の動き

■令和6年4月

## 1 奄美大島・喜界島の製糖終了

令和5-6年期のさとうきび製糖が終了しました。奄美大島は12月12日～3月24日までの製糖期間に、収穫面積534ha、生産量26,466t（前年同期27,495t）となり、喜界島は12月13日～4月12日までの製糖期間に収穫面積1,360ha、生産量75,638t（前年同期76,523t）でした。両島共に生産量や生産者の減少が続く中、喜界島では収量1,000t以上の農家が10戸（前年同期9戸）に増加し、経営規模の大規模化も進んでいます。



大規模農家の収穫風景

## 2 パッションフルーツのほ場巡回で意見交換

4月18日から19日にかけて、瀬戸内パッションブランド産地協議会（会員27名）による瀬戸内町内のほ場巡回が行われました。今年は2～3月の日照不足や低温等が影響し、花芽が黄色くなって落下する現象が各ほ場で多発しました。そのため、花芽が着かなかった枝を切り戻し、再伸長に伴って、新たに花芽を持たせることを試みています。今回、他のほ場の生育状況を確認したり、栽培方法や課題等について意見交換ができたことで、お互いに刺激を受けました。今後も継続する計画です。



生育状況の説明



意見交換のようす

### 3 令和5年度産奄美たんかん出荷販売反省会で、対策を呼びかけ！

4月22日を皮切りに、奄美たんかんの出荷販売反省会が全5市町村別に開催されました。今期は裏年傾向の中、選果場にはほぼ計画どおりの247tが集荷されました。天候にも恵まれ、外観・内容ともに良好な品質とあって、近年では最高の平均共販単価を記録しました。昨年より新規の共販農家も10名増加するなど、共販強化への意識も一層高まりつつあるようです。普及からは全会場で、表年である今期の対策の重要性を訴え、具体的な方針を示しながら隔年結果幅の是正を図るよう呼びかけました。



奄美市会場のようす



大和村会場のようす



瀬戸内町会場のようす

### 4 喜界町で大島地区生活研究グループ連絡協議会及び研修会が開催

4月23日、喜界町役場で令和6年度大島地区生活研究グループ連絡協議会の総会が開催されました。喜界町での開催は11年ぶり。生研グループの活動をSNS等で発信するなど活動の見える化を進めることが食文化の継承やネットワークの拡大に必要ではないかとの提案があるなど有意義な協議がなされました。令和5年度は13名の新規会員が加入し、活動が活性化してきているが年齢層の変化は小さい。次世代にとっても魅力ある活動展開について会員と意見を共有し活動支援を継続したいです。